

松村通信第164号

9月23日
松村勝弘

新しい階級社会

近況 8月31日は経営学部校友会総会、懇親会がありました。今回は記念講演に、「お酒の美術館」主宰のNBG会長の滝下信夫氏をお招きしてお話を伺いました。「挑戦の連続～走りぬいた半世紀」をテーマにお話をいただきました。懇親会では、氏の売り出しのキャラ「ノブちゃんマン」姿で会場のお客様



を楽しませ、私も喜ばせていただきました。

9月7日には私も応援している「阪神タイガース」が2リーグ分裂後最速で優勝し、気分は最高でした。だからこそ、今年は応援を行った2回とも阪神が勝ったのでした。9月11日には、立命館大学会計学研究会OB会有志による懇親会で楽しませてもらいました。今日23日は朱雀図書館の図書返却日だったので行ったら、休館だったので行ったら、休館だった。ありやー。

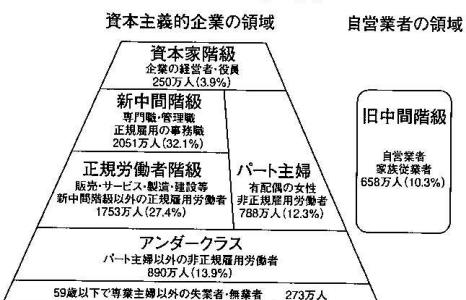
新しい階級社会 8月に読んだ本、橋本健二『新しい階級社会 最新データが明かす（格差拡大の果て）』（講談社現代新書、2025年）は、興味深いものでした。6月11日が第1刷で、私が買ったのは7月22日の第三刷だから、話題の本だといえる。今回はそれを中心に書

きたいと思います。すでに何編も書評も出ているので読まれた方も多いと思います。私なりの紹介をしたいと思います。

著者はマルクス主義社会学者ですから、階級に言及しているわけです。これまでに、『新・日本の階級社会』（2018年）、『アンダークラス』（2018年）を書かれており、今回の本はその続編ともいうべき本です。今回の本を読んでから、前の二冊も読んでみました。マルクス主義によれば、資本主義社会は資本家階級と労働者階級の二つの階級から成り立ち、労働者階級が資本家階級を倒して共産主義社会が成立すると「予測」するものです。今ではそのストーリーを信ずる人はいないでしょう。ただ近年日本でも「格差社会」という言葉がもてはやされているように、社会は階層化が進み格差が拡大していることは間違いないでしょう。本書が受け入れられたのは、こんな背景があるからでしょう。

階級構造 この本の特徴は、資本家階級、労働者階級、新中間階級（専門職、管理者など）、旧中間階級（自営業者、家族従業者など）のほかに、パート以外の非正規労働者をアンダークラスというもっとも下級階級として認識していることである。これを図解したのが下記の図表である。

図表1・1 現代日本の「新しい階級社会」の構造

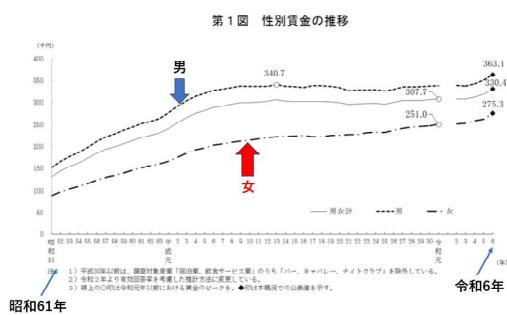


注) 就業者の人数と構成比は2022年就業構造基本調査より、失業者・無業者は2020年国勢調査より算出。

まず目次を見て、この本の全体構造を見ておこう。

- 第一章 「新しい階級社会」とは何か
 第二章 新しい階級社会が生まれるまで
 第三章 五つの階級：それぞれの生い立ち
 と日常
 第四章 哀しみにアンダークラス
 第五章 男の階級・女の階級
 第六章 人の階級はどうやって決まるか
 第七章 階級格差を拡大させた新型コロナ
 第八章 格差をめぐる対立の構図と日本の
 未来

見られるとわかるように、アンダークラスのほかに、女性をある種の被搾取階級と位置づけている。これは実感としてもよくわかるが、政府統計でも示されている。「令和6年賃金構造基本統計調査」冒頭の図がこれである。暦年の数値で見ても、その差はなかなか縮まらない。



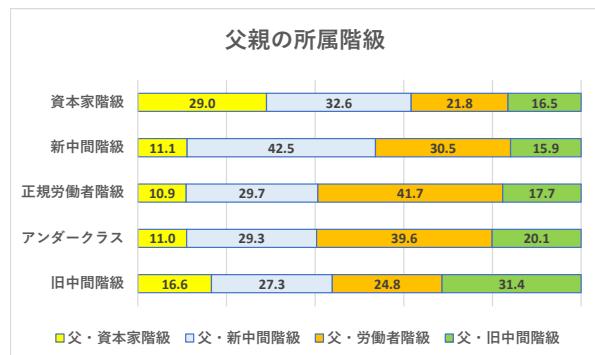
アンダークラス 著者は先にもいったとおり、パート以外の非正規労働者をアンダークラスと位置づけている。各階級の特徴を表にしたもののが下記である。これは、『地平』2025年5月号に掲載されていた、そしてネットで拾うことのできた、橋本健二氏の「格差拡大と日本社会の危機」という論考から引用したものであるが、その特徴が一目瞭然である。

	資本家階級	新中間階級	正規労働者階級	アンダークラス	(参考)パート主婦	旧中間階級
人数と構成比	250万人 (3.9%)	2051万人 (32.1%)	1753万人 (27.4%)	890万人 (13.9%)	788万人 (12.3%)	658万人 (10.3%)
平均年齢	51.7歳	42.6歳	40.6歳	41.2歳	48.7歳	51.6歳
個人年収	983万円	567万円	486万円	216万円	135万円	411万円
世帯年収	1199万円	819万円	675万円	379万円	690万円	669万円
総資産額	6335万円	2318万円	1385万円	720万円	1991万円	3769万円
貧困率	5.5%	4.9%	7.6%	37.2%	12.6%	18.4%
未婚率	18.6%	33.4%	34.6%	69.2%	—	31.6%

アンダークラスの年収(個人年収 216万円、世帯年収 379万円)は正規労働者階級と比べても半

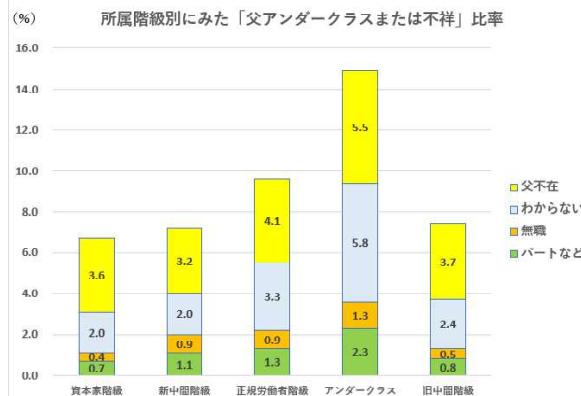
分以下でしかない。ある国の等価可処分所得(手取り収入を調整したもの)の中央値の半分に満たない所得の人の割合を貧困率というが、アンダークラスではこれが 37.2 %となっている。これでは結婚してもやっていけないだろう。まさにそのとおりで、未婚率 69.2 %、つまり 7割くらいの人が未婚なのである。その総数 890 万人は比率的にも 13.9 %、こんなに多くの人がアンダークラスとなっているのである。「だからアンダークラスは子孫を残さない。再生産不可能な階級、それがアンダークラスである。」(89 頁) すなわち、次世代を生み残せない。少子高齢化が問題になっているが、これを放置しておいて騒ぎ立てるのも問題である。もちろん、近年未婚率が全体的に高くなっている。これはこれで別に取り上げるべきだろう。

アンダークラスの育ち アンダークラスの人たちはどんな育ち方をしているのか。父親の所属階級はその子の所属階級に大きな影響を与えることは容易に理解できるだろう。アンダークラスの父親の 41.7 %が労働者階級であることが次の図からもわかる。逆に資本家階級の父親の 29.0 %が資本家階級である。また新中間階級の父親の 42.5 %が新中間階級であることがわかる。



アンダークラスの人々はしばしば「父不在」である。父が「『アンダークラスまたは不祥』の比率は、アンダークラスが飛び抜けて高く、父不在が五・五%、『わからない』が五・八%など、合計で一四・九%にも達している。」「父無職」(1.3%)「父パートなど」(2.3%)

を加えると合計で 14.9 % にも達している(100 頁)。



親からの暴力を受けた比率が 9.4 % と他の階級と比べてもっと高く、中学 3 年生のときの学校での成績もたの階級と比べて低く、いじめを経験した人の比率は 29.7 % に達しており、たの階級を 10 % 前後、あるいはそれ以上も上回っている(104 頁)。最終学歴を中退した人の比率も他の階級より高い。

アンダークラスの人は、環境に恵まれていない上に、育ちの家庭でもいろんな困難に遭遇しているわけである。

さらに「本書では、パート主婦を除く非正規労働者をアンダークラスと呼んでいる。この定義にしたがえば、職業をもたない失業者は所属階級をもたないから、アンダークラスには入らない。しかし現実には、雇用の不安定なアンダークラスは、しばしばアンダークラスと失業者の間を行き来しているし、無業者は失業者と連続している。」(136 頁)

被搾取階級としての女性 先に女性はある種の被搾取階級だと述べた。この点を一つの章を割いて論じている。

次の図表は、本書の図表 5・2 と 5・3 を統合したものであるが、これを見れば、女性の方がアンダークラスと無職¹⁾が多い。この割合は男性 22 %、女性 40.2 % と 2 倍近いのである。すなわち女性は年収の低い方に偏っている上、どの階級をみても年収は女性の方が低い。無職で年収が男性 332 万円、女性 80 万円と格差が大きい。「これは無職の男性には恵まれた年金を受けとっている人や資産収入のある人が多いからである。」(168 頁)男女

雇用機会均等法があるが、格差は縮まっていない。

図表 男女別にみた階級構成と年収格差

	男性		女性		男女計	男女格差 (1) ÷ (2)
	構成比	年収(1)	構成比	年収(2)		
資本家階級	3.9%	1102	1.1%	489	2.5%	2.25
新中間階級	41.8%	691	29.7%	389	35.7%	1.78
正規労働者階級	24.5%	520	6.7%	364	15.5%	1.43
アンダークラス	5.0%	242	7.2%	202	6.1%	1.20
旧中間階級	7.7%	483	3.9%	271	5.8%	1.78
無職	17.0%	332	33.0%	80	25.1%	4.15
合計	100.0%		100.0%		100.0%	

階級の固定化 さきに資本家階級のこは資本家階級になる率が高く、逆に労働者階級やアンダークラスの子はその親の階級に属することが多いことを紹介した。労働者階級の子から資本家階級を輩出することは困難である。労働者階級の子が資本家階級となるのを世代間移動という。資本家階級の子が資本家階級となり、新中間階級の子が新中間階級となる労働者階級の子が労働者階級となるといった、非移動の率が算出されている。

表6・1 世代間移動表 (2015年・男性・35-54歳)

父親主職	本人				
	資本家階級	新中間階級	労働者階級	旧中間階級	合計
資本家階級	33	31	10	7	81
新中間階級	6	151	81	25	263
労働者階級	9	131	207	25	372
旧中間階級	24	97	95	62	278
総計					994

本書の 207 頁にある図表 6・1 を少しうまくしたものが上記の図で網掛けされたものが、非移動場合である。この非移動 (33 + 151 + 207 + 62 = 453) を総計の 994 で割ったものが非移動率・世襲率となる。すなわちこの場合は 0.456 が非移動率となる。

図表6・2 移動指標の推移・男性 (35-54歳)

	1955	1965	1975	1985	1995	2005	2015
非移動率	0.604	0.455	0.419	0.381	0.393	0.446	0.456
世襲率・資本家階級	0.329	0.329	0.233	0.263	0.376	0.365	0.407
世襲率・新中間階級	0.532	0.597	0.517	0.590	0.656	0.677	0.574
世襲率・労働者階級	0.474	0.542	0.515	0.478	0.475	0.525	0.556
世襲率・旧中間階級	0.633	0.441	0.408	0.311	0.258	0.279	0.223

出典) SSMデータから算出。35-54歳男性。

その非移動率は、戦後初期は比較的高かったが、高度成長とともに低下したが、近年それが高くなっている。それが本書 211 頁にあ先の図表 6・2 である。高度成長期終了時点

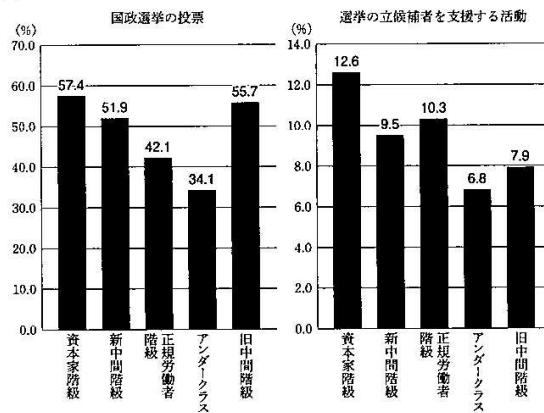
ともいえる 1985 年のそれは 0.381 であったが、2015 年には 0.456 と高まっている。まさに「階級の固定化」がすすんできているのである。

恒産なくして恒心なし 階級別に支持政党をみてみると、アンダークラスでもっとも高いのは「支持なし」で、68.8 % となっている。資本家階級は「支持なし」が 44.6 % ともっとも低い。彼らは自分の利害を政治を通じて実現しているといえる。アンダークラスは生活にゆとりもなく国政に关心を持つ余裕がない、ともいえる。



しかも、次の図表から見てもわかるように、階級別にみて国政選挙への投票がアンダークラスが最も低く 34.1 % となっている。資本

図表 3・20 階級別にみた政治参加



出典) 2022年三大都市圏調査データより算出。

注)「国政選挙の投票」は「いつもしている」、「選挙の立候補者を支援する活動」は「いつもしている」「よくしている」の合計。

家階級の 57.4 %、旧中間階級の 56.7 % と比べてあまりにも低い。選挙の立候補者への支援活動の比率も資本家階級の 12.8 % に対して、アンダークラスのそれは 6.8 % と低く、全階級の中で最も低い。政治に関わる余裕な

どないということかもしれないが、それでは自分たちの利害が踏みにじられることを受け入れざるを得ない。まさにそうなっている。アンダークラスは「支持政党なしの比率が高いことを考えても、もっとも政治参加に消極的な、あるいは政党からの働きかけを受けることのない、政治から疎外された階級だといえるだろう。」(130 頁) あるいはまた、彼らの利害を考えて掬い上げようとする政党がないともいえるかもしれない。

資本家階級や新旧の中産階級は政治への関心は高い。生活に一定の余裕がないと政治への参加意欲もてこないのであろう。「恒産なくして恒心なし」とはよくいったもので、アンダークラスは政治に無関心であり、そして政治から見放されている。

衣食足りて礼節を知る アンダークラスや底辺労働者の不満が蓄積されることを恐れなければなるまい。彼らがその鬱憤を晴らすために過激・ポピュリズムに走るおそれなしとしないのである。世界的にも新自由主義蔓延のレガシーともいべき格差が拡大し、ポピュリズムが広がっているようだ。日本古来の謙譲の美德を思い起こすべきではないか。そのためには、生活に余裕が必要である。

――
 1) 無職の定義は難しいようである。ネット AI によると「『無職』は仕事をしていなくても就職の意思がある人を指すことが多く、『無業者』は無職のなかでも就職活動をしていない人を広く指します。特に若い世代で仕事も学校も職業訓練もしていない人を『ニート』と呼び、それ以外の年齢層で仕事をしていない場合は、求職活動の有無によって『求職無業者』と『非求職無業者』に分けられます。」こう書かれており、さらに下記に詳しい。「政府統計の総合窓口」というサイト、多喜弘文「日本における無業者の類型と趨勢—就業構造基本調査の個票データを用いた記述的分析—」(<https://www.e-stat.go.jp/jisseki/file-download>)

HP, FBを見て下さい。又何でも意見を。

皆さんのご意見を歓迎します。HP (<http://www.ritsumei.ac.jp/~matumura/>) もご覧下さい。フェースブックもやってます。また、メールで意見交換しましょう。メールをよこして下さい (matumura@mba.ritsumei.ac.jp)。